

ナサニエル・ホーソン研究  
Hawthorne Studies Bibliography in Japan: 2022-2023

日本ナサニエル・ホーソン協会資料室

田島優子（上智大学）

竹井智子（京都工芸繊維大学）

**I. Books**

真田満・倉橋洋子・小田敦子・伊藤淑子（編著）『19世紀アメリカ作家たちとエコノミー——国家・家庭・親密な圏域』彩流社（2023）.

高橋利明（著）『ホーソン文学への誘い——ロマンスの磁場と平衡感覚』開文社出版（2022）.

西谷拓哉・高尾直知・城戸光世（編著）『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』開文社出版（2023）.

**II. Dissertations**

Tashima, Yuko. *Woman and Sympathy in Nathaniel Hawthorne's Works: From the Romance to the Real*. Kyushu University (2023).

**III. Bibliographies**

該当なし

**IV. Translations**

大野美砂・高尾直知・中西佳世子（訳）、ホレーショ・ブリッジ著、ナサニエル・ホーソン編『アフリカ巡航者の日誌——ペリー艦隊・奴隷貿易・リベリア』松籟社（2022）.

岡本綺堂（編訳）、ナサニエル・ホーソン著「ラッパチャーニの娘」『世界怪談名作集——信号手・貸家ほか五篇』河出書房新社（2022） pp. 239-96.

**V. Articles**

有馬三冬「“Rappaccini's Daughter” における言葉とジェンダー」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』23 立教大学（2022） pp. 51-61.

生田和也「経済の呪い——ホーソンの『七破風の屋敷』における親密圏の形成」『19世紀アメリカ作家たちとエコノミー——国家・家庭・親密な圏域』 pp. 141-58.

——「ロジャー・マルヴィンの埋葬者——ホーソンのオーク表象を再考する」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 225-43.

石川志野「死者を見つめるホーソン——エクフラシスとヴァニタス」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 343-63.

稲富百合子「ホーソン文学における家庭と墓の円環イメージ——「ウェイクフィールド」を中心に」『追手門学院大学共通教育論集』1 追手門学院大学共通教育機構（2023） pp. 1-17.

上原正博「ホーソンのロマンスの雰囲気について——序文再読」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 265-85.

大川淳「皮膚、テキスト、鏡——「瘡」におけるエールマーの罪のしるし」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 287-304.

大野美砂「『七破風の屋敷』における中産階級家族の形成と労働者／奴隷の表象」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 161-78.

川下剛「視線と仕草——『ブライズデール・ロマンス』における劇場の隠喩」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 323-41.

- 城戸光世「〈エシカル・ルネサンス〉期のホーソン文学」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 3-21.
- 倉橋洋子「ホーソンの「不滅の名声の夢」追求と経済的困窮との闘い——ホレイショ・ブリッジの友情と援助」『19世紀アメリカ作家たちとエコノミー——国家・家庭・親密な圏域』 pp. 41-59.
- 小南悠「病いをばかす——『緋文字』における天然痘の政治学<sup>ポリティクス</sup>」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 101-19.
- 小宮山真美子「丁寧な埋葬」をめぐるロマンス——ホーソンの作品における死者と生者の土地／物語空間」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 203-23.
- 齊藤園子「プライズデール共同体をめぐるポリアモリーとホモソーシャルな絆」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 179-99.
- 佐々木英哲「若いグッドマン・ブラウン」——黙示録的終末世界に見るエディプス問題と疎外」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 23-40.
- 貞廣真紀「ジュリアン・ホーソンと父の親密圏——文学史と市場のはざままで」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 427-43.
- 下河辺美知子「総督官邸に伝わる物語」にはめ込まれた場所と時間と人間の心——アメリカ的恐怖の重層性」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 41-61.
- 高尾直知「たとえ実際に起こらなかったとしても、起こるべきだった」ことを書く——『アフリカ巡航者の日誌』におけるホーソンの編集」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 387-405.
- 「罪と美德の両方の魅惑を——第一次アフリカ艦隊（1843-1845）とリベリア植民地における談判」『年報アメリカ研究』57 アメリカ学会（2023） pp. 145-63.
- 高橋愛「呪いとしての祝福——「ロジャー・マルヴィンの埋葬」における父子関係の再考」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 245-61.
- 竹井智子「花崗岩のような群衆——「天国行き鉄道」の語りと移動」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 305-22.
- 竹内勝徳「ラパチャーニの娘」における思考と情念——ダークエコロジーを参照点として」『鹿児島大学法文学部紀要人文科学論集』90 鹿児島大学（2023） pp. 45-56.
- 辻祥子「ホーソンの失われた「上昇する螺旋」——21世紀に読む巡礼の旅の物語」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 365-86.
- 常光健「『緋文字』におけるインディアン<sup>インディアン</sup>の痕跡——インディアンとの和解思想」『中央大学大学院研究年報文学研究科篇』51 中央大学研究年報編集委員会（2022） pp. 137-50.
- 中西佳世子「ドメスティック・イデオロギーを解体するホーソンの炉辺——『七破風の屋敷』の暖炉とコーヒー」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 141-59.
- 成田雅彦「ハナ・ダストンの肖像とホーソンのスケッチ——インディアン虐殺、聖なる女性、マニフェスト・デスティニー」『人文科学年報』52 専修大学人文科学研究所（2022） pp. 1-25.
- 「ホーソンの「痣」再考——チェロキー族の強制移送と白人至上主義の論理」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 83-100.
- 丹羽隆昭「ホーソン最後の日々」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 407-26.
- 野崎直之「存在のエコロジー——ホーソンの『緋文字』における共感、身体、依存」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 121-40.
- 乗口眞一郎「ホーソンとヘンリー・ジェイムズ——*The Golden Bowl*をめぐる」『北九州アメリカ文学』8 北九州アメリカ文学研究会（2022） pp. 139-70.
- 橋本亮平「『プライズデイル・ロマンス』における予言とカヴァデイルの「やり直し」」『英文学誌』64 法政大学英文学会（2022） pp. 19-33.

林姿穂「ホーソンからハーンに受け継がれる自然観と女性像——「ラパチーニの娘」と「青柳の話」を中心に」『ロマンスの倫理と語り——いまホーソンを読む理由』 pp. 63-82.

藤沢徹也「「古い指輪」における作中人物の「伝説」への反応——賞賛と不満の真意」『Persica』49 岡山英文学会 (2022) pp. 31-42.

——「ホーソン作品に見る不合理な意思決定」『Persica』50 岡山英文学会 (2023) pp. 1-12.

——「ホーソン文学と読者——「古い指輪」を中心に」『英語英文学研究』67 広島大学英文学会 (2023) pp. 69-81.

藤村希「“The Gentle Boy” 三異本における共感とホーソンのジェンダー・ポリティクス」『関東英文学研究』15 日本英文学会関東支部 (2023) pp. 11-20.

増永俊一「古い建物とアイコン——職業作家ホーソンの創作技法 (2)」『エクス：言語文化論集』13 関西学院大学経済学部研究会 (2023) pp. 187-207.

葉師寺元子「“My Kinsman, Major Molineux”の一考察——Robinの笑いと群衆下の「イニシエーション」」『北九州アメリカ文学』8 北九州アメリカ文学研究会 (2022) pp. 123-38.

山口晋平「観客から演者へ——*The Blithedale Romance*における Coverdale のパフォーマンス」『九州アメリカ文学』63 九州アメリカ文学会 (2022) pp.29-43.

Arai, Keiko. “I am mother’s child”: Nathaniel Hawthorne’s Moderate Feminism in *The Scarlet Letter*” 『武蔵大学人文学会雑誌』53 武蔵大学人文学会 (2022) pp. 207-30.

Ishikawa, Shino. “Nathaniel Hawthorne’s Green Language: Reading Horticulture in *The House of the Seven Gables*” 『関東英文学研究』15 日本英文学会関東支部 (2023) pp. 41-50.

## VI. Reviews

池末陽子『ゴシックの享楽——文化・アダプテーション・文学』（武田悠一編著）『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp. 49-58.

大島由起子『「男らしさ」のイデオロギーへの挑戦——ジェンダーの視点からメルヴィルを読む』（高橋愛著）『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp. 39-47.

大野美砂『複眼のホーソン』（入子文子著）『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp. 19-27.

小南悠『ホーソン文学への誘い——ロマンスの磁場と平衡感覚』（高橋利明著）『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp. 29-37.

小宮山真美子『ホーソン文学への誘い——ロマンスの磁場と平衡感覚』（高橋利明著）『図書新聞』3578 武久出版 (2023) p. 5.

真田満（書評エッセイ）*Beneath the American Renaissance: The Subversive Imagination in the Age of Emerson and Melville.* (David S. Reynolds 著) 『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp.11-18.

佐野陽子 *Psychoanalytic Readings of Hawthorne’s Romances: Narratives of Unconscious Crisis and Transformation.* (David B. Diamond 著) 『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp. 59-66.

舌津智之『テキストと戯れる——アメリカ文学をどう読むか』（高野泰志・竹井智子編著）『英文学研究』99 日本英文学会 (2022) pp. 97-102.

田島優子『「男らしさ」のイデオロギーへの挑戦——ジェンダーの視点からメルヴィルを読む』（高橋愛著）『東北アメリカ文学研究』46 日本アメリカ文学会東北支部 (2022) pp. 57-61.

高尾直知『複眼のホーソン』（入子文子著）『図書新聞』3549 武久出版 (2022) p. 5.

中西佳世子（書評エッセイ）*Beneath the American Renaissance: The Subversive Imagination in the Age of Emerson and Melville.* (David S. Reynolds 著) 『フォーラム』28 日本ナサニエル・ホーソン協会 (2023) pp.1-9.

中村善雄『テキストと戯れる——アメリカ文学をどう読むか』（高野泰志・竹井智子編著）『アメリカ文学研究』59 日本アメリカ文学会 (2023) pp. 9-14.

## VII. Essays & Miscellanies

- 青井格「九州支部研究会」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 15.
- 大野美砂「第 41 回大会のお知らせ」『NHSJ Newsletter』41 (2023) pp. 18-19.
- 城戸光世「編集室だより」『NHSJ Newsletter』41 (2023) pp. 16-17.
- 倉橋洋子「進藤鈴子先生を偲んで」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 20.
- 「中部支部研究会」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 14.
- 鈴木孝「事務局だより」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 16.
- 「東京支部研究会」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 13.
- 田島優子「資料室だより」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 17.
- 中西佳世子「関西支部研究会」『NHSJ Newsletter』41 (2023) pp. 14-15.
- 西谷拓哉「ご挨拶」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 1.
- 丹羽隆昭「ハイブリッド・カーと木曾御嶽山——進藤鈴子氏を偲んで——」『NHSJ Newsletter』41 (2023) p. 20.
- Hayashi, Shiho. “Religious Perspectives and Religious Tourism in Hawthorne’s ‘Sunday at Home’ and Melville’s ‘The Two Temples.’” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 5.
- Ikesue, Yoko. “Absurdity and Ratiocination: Poe’s Sundays and Hawthorne’s ‘Sunday at Home.’” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) pp. 4-5.
- . “Reading ‘Sunday at Home.’” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 4.
- Kawashita, Takeshi. “Reading ‘Sunday at Home’ during the COVID-19 Pandemic.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) pp. 6-7.
- Narita, Masahiko. “American Renaissance and the Making of White Supremacy.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 9.
- . “White Anglo-Saxon Transcendentalist: Emerson and the Problem of White-Supremacy.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) pp. 11-12.
- Ono, Misa. “Holgrave and Phoebe’s Construction of Whiteness in *The House of the Seven Gables*.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) pp. 10-11.
- Takahashi, Tsutomu. “‘The Only True America’: Thoreau’s Nativist Rhetoric.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) pp. 9-10.
- Takeuchi, Katsunori. “Millennial Capitalism and the Racial Problems: A Critique of Max Weber through Herman Melville’s Works.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 10.
- Toyota, Machi. “Plants and Veils: The Transformation of the Characters in *The Blithedale Romance*.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 3.
- Uemura, Mami. “Following the Sunlight: Reading ‘Sunday at Home’ and *Sunset Park*.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 6.
- Uchibori, Naoko. “Embracing ‘Frailty and Sorrow’: The Ethics of Care in *The Scarlet Letter*.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 2.
- Yamashita, Noboru. “Faulkner as the Modern Exploiter of Hawthorne’s Legacy: Race, Gender and Class in *The House of The Seven Gables* and *Go Down, Moses*.” *NHSJ Newsletter* 41 (2023) p. 8.

\*本資料は、2023年6月24日(土)全国大会総会にて配布したものに修正を加えたものです。論文の記載漏れなどお気づきの点がございましたら資料室担当者までお知らせください。また、論文などを執筆された際には資料室に一部お送りいただくか、あるいはタイトルなどを資料室担当者までお知らせください。

\*2023年度の全国大会をもって資料室担当者および資料室の住所が変更となりました。詳細は本誌17ページをご参照ください。